

|            |
|------------|
| 専 門 教 養    |
| 令和 4 年 7 月 |
| 60分        |

|             |
|-------------|
| 受 験 教 科 等   |
| 高 等 学 校 商 業 |

## 注 意

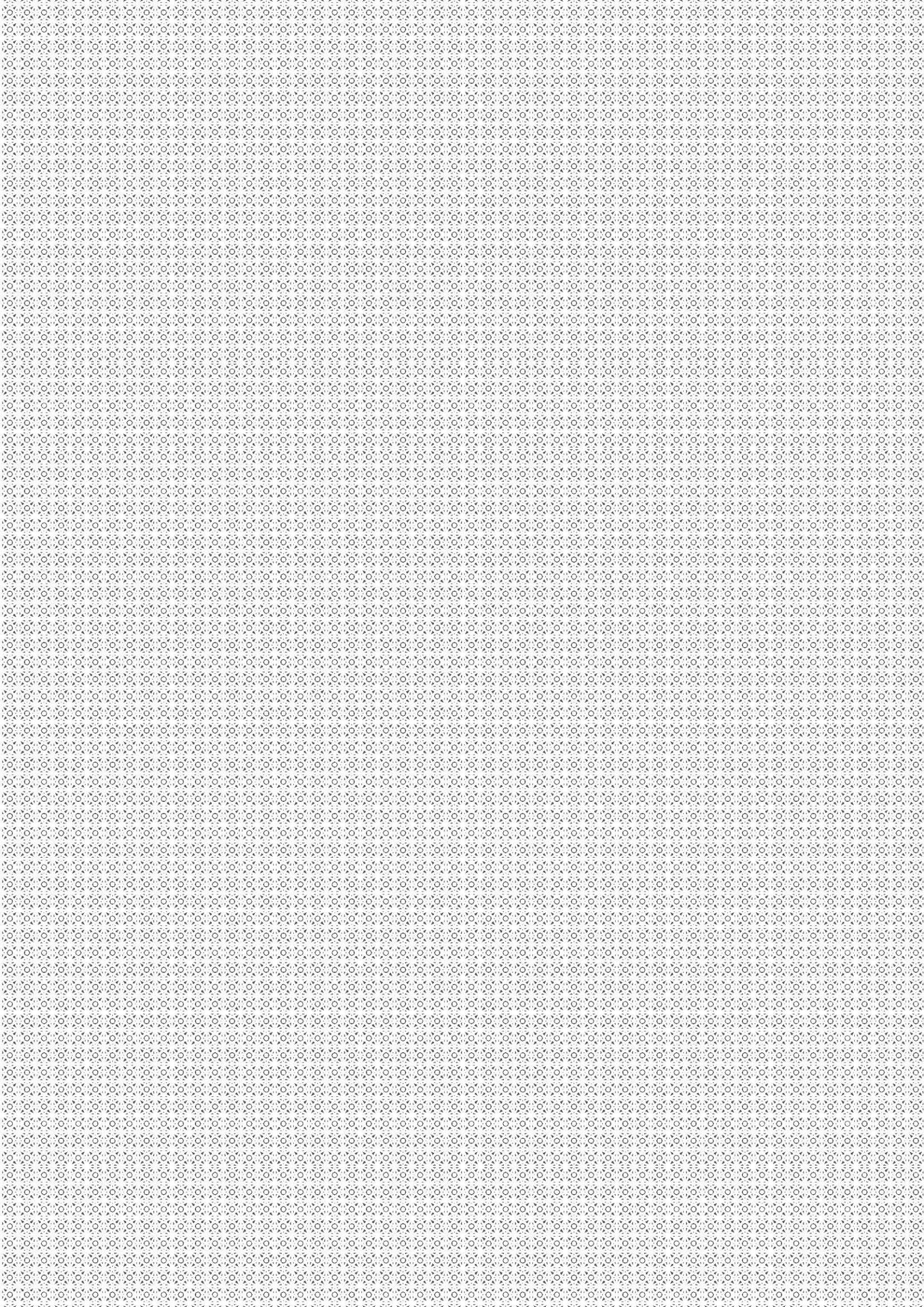
- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、16ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に、**必要事項が正しく記入・マークされていない場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号**を記入し、**受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名**を記入してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

## 解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。各問に対して、正答は一つだけです。**各解答欄に二つ以上マークした場合は誤り**とします。
- 2 「解答番号は 1 。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例）のように解答番号 1 の解答欄の③にマークしてください。

（例）

| 解答<br>番号                                                        | 解答欄                   |
|-----------------------------------------------------------------|-----------------------|
| <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">1</span> | ① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖ |



**1**

学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 高等学校学習指導要領商業の「各科目」の「目標」に関する記述として適切なものは、次の **1**～**4** のうちのどれか。解答番号は **1**。

- 1 「ビジネス・コミュニケーション」には、「ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」と示されている。
- 2 「観光ビジネス」には、「ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」と示されている。
- 3 「ビジネス・マネジメント」には、「ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」と示されている。
- 4 「ソフトウェア活用」には、「企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」と示されている。

〔問 2〕 高等学校学習指導要領商業の「ビジネス基礎」の「内容の取扱い」において、配慮するものとされている事項に関する記述として適切なものは、次の **1**～**4** のうちのどれか。解答番号は **2**。

- 1 「商業の学習とビジネス」の「ビジネスの役割」については、グローバル化が進展する中での日本の果たす役割についても扱うこと。
- 2 「ビジネスに対する心構え」の「コミュニケーションの基礎」については、ビジネスの場面を想定したコミュニケーションに関する実践的・体験的な学習活動を充実させること。
- 3 「企業活動」の「企業の形態と組織」については、起業家精神、ビジネスの創造、経営理念、企業倫理の重要性についても扱うこと。
- 4 「身近な地域のビジネス」の「身近な地域の課題」については、観光の振興と地域社会におけるまちづくりとが連携することの意義について扱うこと。

2

「ビジネス基礎」に関する次の問に答えよ。

[問] 次の小売業の名称ア～ウと、小売業に関する記述A～Dとの組合せとして適切なものは、下の1～9のうちのどれか。解答番号は 3。

ア ホームセンター

イ 専門店

ウ 百貨店

- A 食料品や日用雑貨などの生活必需品を取りそろえ、長時間営業や年中無休を特徴とする業態。主に住宅地周辺に位置する小規模な店舗。
- B 幅広い商品を部門ごとに取り扱い、対面販売を中心とした大規模な業態。高級ギフトの販売や地下での食品販売がある。
- C 日用品から住宅関連品、園芸用品まで幅広い品ぞろえをした大規模な店舗をかまえる業態。DIYに関連した商品が豊富にある。
- D 取扱商品の種類を絞り、特定の消費者層をターゲットにして品ぞろえをしている業態。特定の分野の商品を低価格で販売するカテゴリーキラーと呼ばれるものもある。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| 1 | ア－A | イ－B | ウ－D |
| 2 | ア－A | イ－C | ウ－B |
| 3 | ア－A | イ－D | ウ－C |
| 4 | ア－B | イ－A | ウ－C |
| 5 | ア－B | イ－C | ウ－D |
| 6 | ア－B | イ－D | ウ－A |
| 7 | ア－C | イ－A | ウ－D |
| 8 | ア－C | イ－B | ウ－A |
| 9 | ア－C | イ－D | ウ－B |

3

マーケティング分野に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 企業の広報活動に関する次の用語ア～ウと、その説明A～Cとの組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は 4。

- ア コーポレート・アイデンティティ  
イ プロダクト・プレイスメント  
ウ インターナル・コミュニケーション

- A 企業の内部的な情報や経営者の方針の伝達、人間関係の親密化などを目的に、社内報を作成したりメールマガジンを配信したりするなど、企業内における従業員のモチベーションを高める目的で行われる活動である。
- B 企業の人格や個性をデザインや言葉によって目に見える形で簡潔に表現することで、企業のブランド価値を高めるのと同時に、社員の意識の統一を図っていくために設定する活動である。
- C 人気タレントが衣料品メーカーの洋服を着て、注目を集め、話題を喚起するなど、テレビドラマや映画の作中で、実在の商品が使われることで、商品の認知や好感を高めたり、使用方法の理解を深めたりする目的で行われる活動である。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| 1 | ア－A | イ－B | ウ－C |
| 2 | ア－A | イ－C | ウ－B |
| 3 | ア－B | イ－A | ウ－C |
| 4 | ア－B | イ－C | ウ－A |
| 5 | ア－C | イ－A | ウ－B |
| 6 | ア－C | イ－B | ウ－A |

- 〔問 2〕 次の記述は、ある会社による商品の開発方針を示したものである。この会社の開発方針に基づいてマーケティング計画を立てたときの価格戦略、流通経路及び販売促進戦略の組合せとして適切なものは、下の 1～0 のうちのどれか。解答番号は 5。

当社開発方針

高級素材を使用して機能性とデザイン性を高めた傘であり、価格にあまりこだわらない高所得者層を標的市場としているため、傘としては高価格に設定する。そうすることで、消費者に先進的なイメージを与えると同時に、十分な利益を確保して、開発費用の早期回収を図る。

また、自社で開発した傘を継続的かつ安定的に販売することを目的にして、取り扱い業者を制限して、特別に契約を結んだ小売業者を代理店として傘を販売する権利を与える。

さらに、販売促進については、メーカーである当社から販売員を派遣して直接商品の説明をしたり、流通業者へのリベートを活用したりすることで、この傘を販売しても良いと思うきっかけを流通業者に与える。

|   | 価格戦略 | 流通経路 | 販売促進戦略 |
|---|------|------|--------|
| 1 | 上澄吸収 | 開放的  | プル     |
| 2 | 上澄吸収 | 開放的  | プッシュ   |
| 3 | 上澄吸収 | 選択的  | プル     |
| 4 | 上澄吸収 | 排他的  | プル     |
| 5 | 上澄吸収 | 排他的  | プッシュ   |
| 6 | 市場浸透 | 開放的  | プッシュ   |
| 7 | 市場浸透 | 開放的  | プル     |
| 8 | 市場浸透 | 選択的  | プッシュ   |
| 9 | 市場浸透 | 排他的  | プル     |
| 0 | 市場浸透 | 排他的  | プッシュ   |

- 〔問 3〕 商品開発の授業で、次の記述のような買物用のビニール製バッグを開発することになった。そこで、商品化するに当たって考えておきたい知的財産権について、生徒A～Cがそれぞれ下のような発言をした。生徒A～Cと、教師の指導の内容ア～ウとの組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 6。

開発商品名：「高校生が考えた三角バッグ」

商品の特徴：小さく折りたたむと三角形になる形状で、買物の際に広げると、底の部分が平らになって重いものでも安定して入れることができる。

生徒A： この商品の「高校生が考えた三角バッグ」という商品名には、誰の商品かを明確にする出所表示機能や、宣伝広告機能があると思います。そこで、知的財産として保護されるために、特許庁に出願し、認められれば、登録料を支払うことにより、出願日から20年間は独占的な使用権が得られます。

生徒B： この商品の三角形の形状は、商品固有の形態を保っている形態性や視覚を通じて美観を起こさせるものがあると思います。そこで、知的財産として保護されるために、特許庁に出願し、登録料を支払うことにより、特に実体的な審査もなく、登録日から権利が発生して、出願日から10年間は保護されます。

生徒C： この商品を広げると底の部分が平らになるという考案は、高度ではないですが、商品の形状や構造、組合せについての工夫だと思います。そこで、知的財産として保護されるために、特許庁に出願し、認められれば、登録料を支払うことにより、認定登録の日から10年間、さらに更新申請を何度でも繰り返すことで権利が存続されます。

ア この生徒は、意匠権の手続きや保護期間を実用新案権のものと誤って理解していると考えられるので、それぞれの保護期間や特徴について整理するよう指導する。

イ この生徒は、実用新案権の手続きや保護期間を商標権のものと誤って理解していると考えられるので、それぞれの保護期間や特徴について整理するよう指導する。

ウ この生徒は、商標権の手続きや保護期間の特許権のものと誤って理解していると考えられるので、それぞれの保護期間や特徴について整理するよう指導する。

- |   |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|
| 1 | 生徒A－ア | 生徒B－イ | 生徒C－ウ |
| 2 | 生徒A－ア | 生徒B－ウ | 生徒C－イ |
| 3 | 生徒A－イ | 生徒B－ア | 生徒C－ウ |
| 4 | 生徒A－イ | 生徒B－ウ | 生徒C－ア |
| 5 | 生徒A－ウ | 生徒B－ア | 生徒C－イ |
| 6 | 生徒A－ウ | 生徒B－イ | 生徒C－ア |

**4** マネジメント分野に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 次の記述は、国際貿易に関する比較優位の原理に関するものである。記述中の空欄

**ア** ～ **エ** に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **6** のうちのどれか。解答番号は **7** 。

国際貿易は、各国が相対的に優位に生産できる商品の生産に特化して、それを輸出し合えば、互いに利益が得られる比較優位の原理に基づいて行われている。

これについて、労働者一人当たりの生産高を示した下表を用いて考えてみる。

労働者一人当たりの生産高

|     | コメ   | 自動車  |
|-----|------|------|
| A 国 | 4 t  | 6 台  |
| B 国 | 20 t | 12 台 |

まず、A 国の労働者200人、B 国の労働者200人を、それぞれの国でコメの生産と自動車の生産に100人ずつ割り当てて生産したと仮定する。すると、同じ労働者数で生産した場合、商品ごとにA 国とB 国の生産高を合計すると、コメは **ア**、自動車は **イ** となる。

次に、労働生産性を相対的に比較することで、それぞれの国にとって、どの商品に力を入れて生産したら良いのか考えてみる。すると、コメについてみるとA 国はB 国の20分の4の労働生産性、自動車についてみるとA 国はB 国の12分の6の労働生産性と考えることができる。そこで、A 国とB 国がそれぞれの得意分野の生産に専念して、それ以外は相手国から輸入しようと考え、生産に必要な労働者の人数配分を変更してみる。A 国は、自動車の生産に特化し、200人全ての労働者を自動車の生産に割り当てる。B 国は、コメの生産に130人、自動車の生産に、残りの70人を割り当てるとする。こうした場合、商品ごとにA 国、B 国の生産高を合計すると、コメは **ウ** となり、自動車は **エ** となる。つまり、どちらの商品も生産高の合計を増やすことができることが分かる。

- |                           |                  |                  |                  |
|---------------------------|------------------|------------------|------------------|
| <b>1</b> <b>ア</b> 400 t   | <b>イ</b> 600 台   | <b>ウ</b> 480 t   | <b>エ</b> 900 台   |
| <b>2</b> <b>ア</b> 400 t   | <b>イ</b> 600 台   | <b>ウ</b> 2,040 t | <b>エ</b> 2,600 台 |
| <b>3</b> <b>ア</b> 800 t   | <b>イ</b> 1,200 台 | <b>ウ</b> 4,000 t | <b>エ</b> 2,400 台 |
| <b>4</b> <b>ア</b> 1,800 t | <b>イ</b> 2,400 台 | <b>ウ</b> 1,400 t | <b>エ</b> 1,620 台 |
| <b>5</b> <b>ア</b> 2,400 t | <b>イ</b> 1,800 台 | <b>ウ</b> 2,040 t | <b>エ</b> 2,600 台 |
| <b>6</b> <b>ア</b> 2,400 t | <b>イ</b> 1,800 台 | <b>ウ</b> 2,600 t | <b>エ</b> 2,040 台 |

〔問 2〕 金融市場及び資本市場に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。

解答番号は  。

- 1 IPOとは、環境報告書を発行するなど、自社をよりよく理解してもらい、自社の株式を購入してもらうことを意図して、企業が自主的に情報を公開することである。
- 2 IFRSとは、国際会計基準審議会によって設定されている国際的な会計の基準で、国際財務報告基準と呼ばれるものである。
- 3 TOBとは、証券会社などが発行企業と投資家の間に立って、公開価格などを調整しながら初めて株式を上場することである。
- 4 IRとは、時価よりも有利な価格を提示して、目標とする株式の売却を募る方法で、公開買付と呼ばれるものである。

〔問 3〕 ビジネスの創造や起業に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。

解答番号は  。

- 1 大学などの研究成果や技術を産業界に移転するために設立された技術移転機関をTLOという。
- 2 起業に際し必要な少額の資金調達をしたいと考えた場合に、特別な審査がなく、個人の投資家の出資による支援の方法をベンチャーキャピタルによる支援という。
- 3 自社の研究過程で生まれた新しい素材から、新しい商品ができないかと考えた場合に、自社の技術や地域の伝統的な技術やノウハウをもとにして、新しい商品やサービスをつくるような発想の方法をニーズ発想という。
- 4 地域の課題を調査したいと考えた場合に、調査事項を質問形式で記載した質問票により、各質問に対する回答を数値化するアンケートの手法を用いるような、調査対象者の意見を数値化した情報から収集する調査の方法を定性調査という。

## 5

会計分野に関する次の各問に答えよ。

10

- 1 A商店は、商品¥440,000（税込）を仕入れ、代金は先に支払ってある内金¥50,000を差し引き、残額は掛けとした。なお、消費税の税率は10%とし、会計処理は税抜方式によっている。

|    |   |   |   |         |    |   |   |   |   |         |
|----|---|---|---|---------|----|---|---|---|---|---------|
| 借方 | 仕 | 入 | ¥ | 400,000 | 貸方 | 仮 | 払 | 金 | ¥ | 50,000  |
|    |   | 仮 | 払 | 消費税     |    |   | 買 | 掛 | 金 | ¥       |
|    |   |   | ¥ | 40,000  |    |   |   |   |   | 390,000 |

- 2 店舗用の土地を買い入れ、この代金¥18,000,000を買入手数料¥230,000とともに小切手を振り出して支払った。

借方 土 地 ￥18,000,000 貸方 当 座 預 金 ￥18,230,000  
支 払 手 数 料 ￥ 230,000

- 3 B商店は、令和〇4年4月1日（期首）に、今まで使用してきた備品をC商店に¥350,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この備品は令和〇1年の7月1日に¥960,000で購入したもので、定額法により、残存価額は零（0）、耐用年数は8年として減価償却を計算し、間接法で記帳してきた。

|    |           |   |         |    |    |   |         |
|----|-----------|---|---------|----|----|---|---------|
| 借方 | 備品減価償却累計額 | ¥ | 330,000 | 貸方 | 備品 | ¥ | 960,000 |
|    | 未収金       | ¥ | 350,000 |    |    |   |         |
|    | 固定資産除却損   | ¥ | 280,000 |    |    |   |         |

- 4 D商店は、E商店に商品¥500,000を売り渡し、代金のうち¥320,000はD商店がかつて振り出していた小切手を受け取り、残額はE商店振り出しの約束手形を受け取った。

|    |      |   |         |    |    |   |         |
|----|------|---|---------|----|----|---|---------|
| 借方 | 当座預金 | ¥ | 320,000 | 貸方 | 売上 | ¥ | 500,000 |
|    | 受取手形 | ¥ | 180,000 |    |    |   |         |

- 5 F商店（個人企業）は、前期末の決算において、利息の未払高¥9,000を未払利息勘定に振り替えていたが、当期首にあたり、この未払高を再振替した。

借方 支 払 利 息 ￥ 9,000 貸方 未 払 利 息 ￥ 9,000

〔問 2〕 次のG商店が令和○年8月1日に起票した略式の伝票から、仕訳集計表を作成した場合、空欄 **ア** ・ **イ** に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は **11** 。

|                                                        |                                                      |
|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| <u>入金伝票</u><br>令和○年8月1日<br>売掛金 700,000<br>受取家賃 800,000 | <u>出金伝票</u><br>令和○年8月1日<br>買掛金 200,000<br>発送費 60,000 |
|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|

|                                                                                                |                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <u>振替伝票(借方)</u><br>令和○年8月1日<br>売掛金 2,000,000<br>買掛金 1,000,000<br>仕入 2,200,000<br>売掛金 2,560,000 | <u>振替伝票(貸方)</u><br>令和○年8月1日<br>売上 2,000,000<br>支払手形 1,000,000<br>買掛金 2,200,000<br>売上 2,560,000 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|

仕 訳 集 計 表

令和○年8月1日

| 借 方       | 元<br>丁 | 勘定科目      | 元<br>丁 | 貸 方       |
|-----------|--------|-----------|--------|-----------|
| 1,500,000 | 省<br>略 | 現 売       | 省<br>略 | 260,000   |
| 4,560,000 |        | 掛 払 手 金   |        | ( )       |
| <b>ア</b>  |        | 支 払 掛 金   |        | 1,000,000 |
|           |        | 買 掛 金     |        | 2,200,000 |
|           |        | 売 受 取 家 賃 |        | 4,560,000 |
| 2,200,000 |        | 仕 入       |        | 800,000   |
| 60,000    |        | 発 送 費     |        |           |
| ( )       |        |           |        | <b>イ</b>  |

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 <b>ア</b> 1,000,000 | <b>イ</b> 9,500,000 |
| 2 <b>ア</b> 1,200,000 | <b>イ</b> 9,520,000 |
| 3 <b>ア</b> 1,500,000 | <b>イ</b> 9,300,000 |
| 4 <b>ア</b> 2,200,000 | <b>イ</b> 9,200,000 |

〔問 3〕 同種の企業であるH商事株式会社とJ物産株式会社の次の資料について、両社に関する記述として適切なものは、次のページの1～4のうちのどれか。なお、作問の都合上、一部空欄としている部分がある。解答番号は 12。

資 料

I. H商事株式会社の資料

- ① 期首商品棚卸高 856千円
- ② 期末商品棚卸高 904千円（なお、商品評価損及び棚卸減耗損は発生していない。）
- ③ 売上原価率 ( )%
- ④ 商品回転率 ( )回（商品回転率は商品有高の平均と売上原価により求める。）

| 損 益 計 算 書      |                                |
|----------------|--------------------------------|
| H商事株式会社        | 令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで（単位：千円） |
| I 売 上 高        | 17,600                         |
| II 売 上 原 価     | 12,320                         |
| 売上総利益          | 5,280                          |
| III 販売費及び一般管理費 | 2,604                          |
| 営業利益           | 2,676                          |
| IV 営業外収益       | 752                            |
| V 営業外費用        | 578                            |
| 経常利益           | 2,850                          |
| VI 特別利益        | 186                            |
| VII 特別損失       | 544                            |
| 税引前当期純利益       | 2,492                          |
| 法人税・住民税及び事業税   | 748                            |
| 当期純利益          | ( )                            |

Ⅱ. J 物産株式会社の資料

- ① 期首商品棚卸高 817千円
- ② 期末商品棚卸高 ( )千円 (なお、商品評価損及び棚卸減耗損は発生していない。)
- ③ 売上原価率 68%
- ④ 商品回転率 12回 (商品回転率は商品有高の平均と売上原価により求める。)

| 損 益 計 算 書      |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| J 物産株式会社       | 令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで (単位: 千円) |
| I 売 上 高        | 14,400                           |
| II 売 上 原 価     | 9,792                            |
| 売上総利益          | 4,608                            |
| III 販売費及び一般管理費 | 2,412                            |
| 営業利益           | 2,196                            |
| IV 営業外収益       | 544                              |
| V 営業外費用        | 776                              |
| 経常利益           | 1,964                            |
| VI 特別利益        | 162                              |
| VII 特別損失       | 308                              |
| 税引前当期純利益       | 1,818                            |
| 法人税・住民税及び事業税   | 546                              |
| 当期純利益          | ( )                              |

- 1 J 物産株式会社の商品回転率は12回であることから、H商事株式会社はJ 物産株式会社よりも販売効率が悪いと判断できる。
- 2 H商事株式会社の期末貸借対照表に記載される商品の金額は¥904,000で、J 物産株式会社の期末貸借対照表に記載される商品の金額は¥810,000である。
- 3 H商事株式会社の当期純利益は、J 物産株式会社の当期純利益よりも¥462,000大きい。
- 4 H商事株式会社の売上高総利益率が30%であるのに対して、J 物産株式会社の売上高総利益率はH商事株式会社よりも2ポイント高い。

〔問 4〕 次の資料は、単純総合原価計算を採用しているK製作所に関する資料である。この資料から読み取れる月末仕掛品原価と、完成品原価との組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、月末仕掛品原価の計算は先入先出法を採用している。また、素材は製造着手の時に全て投入されるものとし、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。なお、減損は全て当月投入から生じたものである。解答番号は 13。

資 料

ア. 生産データ

|         |                  |
|---------|------------------|
| 月初仕掛品   | 200kg (加工進捗度60%) |
| 当 月 投 入 | <u>800kg</u>     |
| 合 計     | 1,000kg          |
| 月末仕掛品   | 220kg (加工進捗度50%) |
| 正 常 減 損 | <u>30kg</u>      |
| 完 成 品   | <u>750kg</u>     |

なお、正常減損は工程の終点で発生している。

イ. 月初仕掛品原価

素 材 費    ¥ 440,000                  加 工 費   ¥ 468,000

ウ. 当月製造費用

素 材 費    ¥1,920,000                  加 工 費   ¥3,080,000

|   | 月末仕掛品原価  | 完成品原価      |
|---|----------|------------|
| 1 | ¥963,000 | ¥4,820,000 |
| 2 | ¥968,000 | ¥4,940,000 |
| 3 | ¥985,000 | ¥4,200,000 |
| 4 | ¥986,000 | ¥4,800,000 |

〔問 5〕 L製作所は、製品Mを1個当たり¥500で販売している。この製品Mを1,000個製造し、販売したときの直接原価計算による損益計算書は次のとおりである。下の(1)、(2)の各問に答えよ。

| L製作所 |              | 損 益 計 算 書     | (単位：円)               |
|------|--------------|---------------|----------------------|
| I    | 売 上 高        |               | 500,000              |
| II   | 変動売上原価       |               | <u>300,000</u>       |
|      | 変動製造マージン     |               | 200,000              |
| III  | 変動販売費        |               | <u>100,000</u>       |
|      | 貢 献 利 益      |               | 100,000              |
| IV   | 固 定 費        |               |                      |
| 1    | 固定製造間接費      | 40,000        |                      |
| 2    | 固定販売費及び一般管理費 | <u>30,000</u> | <u>70,000</u>        |
|      | 営 業 利 益      |               | <u><u>30,000</u></u> |

(1) 損益分岐点の販売数量として適切なものは、次の **1～4** のうちのどれか。解答番号は 14。

- 1 140個
- 2 560個
- 3 700個
- 4 750個

(2) 営業利益を¥1,200,000にするための売上高として適切なものは、次の **1～4** のうちのどれか。解答番号は 15。

- 1 ¥1,130,000
- 2 ¥1,200,000
- 3 ¥5,650,000
- 4 ¥6,350,000

**6** ビジネス情報分野に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 次の表は、ある表計算ソフトウェアで〔処理条件〕に従って作成された、検定試験の結果をまとめたものである。F 4 に入力されている式として適切なものは、下の **1**～**4** のうちのどれか。解答番号は **16**。

|    | A      | B  | C  | D  | E | F                     |
|----|--------|----|----|----|---|-----------------------|
| 1  | 検定試験結果 |    |    |    |   |                       |
| 2  | 受験番号   | 実技 | 筆記 | 合格 |   | 実技合格者のうち<br>筆記 70 点未満 |
| 3  | 3001   | 70 | 82 | ○  |   |                       |
| 4  | 3002   | 74 | 55 |    |   | 2                     |
| 5  | 3003   | 65 | 76 |    |   |                       |
| 6  | 3004   | 43 | 54 |    |   |                       |
| 7  | 3005   | 96 | 83 | ○  |   |                       |
| 8  | 3006   | 56 | 74 |    |   |                       |
| 9  | 3007   | 74 | 70 | ○  |   |                       |
| 10 | 3008   | 86 | 84 | ○  |   |                       |
| 11 | 3009   | 81 | 51 |    |   |                       |
| 12 | 3010   | 73 | 78 | ○  |   |                       |

〔処理条件〕

- (1) D 列の「合格」は、B 列の「実技」と C 列の「筆記」の点数がともに 70 点以上の場合に○を表示する。
- (2) F 列の「実技合格者のうち筆記 70 点未満」は、B 列の「実技」の点数が 70 点以上でかつ C 列の「筆記」の点数が 70 点未満の人数を表示する。

- 1** =COUNTIF(B3:B12, ">=70")
- 2** =COUNTIF(C3:C12, "<70")
- 3** =COUNTIFS(B3:B12, ">70", C3:C12, "<70")
- 4** =COUNTIFS(B3:B12, ">=70", C3:C12, "<70")

〔問 2〕 次の表は、ある表計算ソフトウェアで〔処理条件〕に従って作成された、商品の売上金額一覧と売上金額の上位3品をそれぞれの表に示したものである。H3に入力されている式として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、D3からD10には、全て異なる金額が表示されるものとする。解答番号は 17。

|    | A        | B   | C  | D      | E | F         | G      | H   |
|----|----------|-----|----|--------|---|-----------|--------|-----|
| 1  | 商品売上金額一覧 |     |    |        |   | 売上金額の上位3品 |        |     |
| 2  | 商品名      | 単価  | 数量 | 売上金額   |   | 順位        | 売上金額   | 商品名 |
| 3  | A品       | 210 | 74 | 15,540 |   | 1         | 15,540 | A品  |
| 4  | B品       | 170 | 65 | 11,050 |   | 2         | 14,280 | H品  |
| 5  | C品       | 250 | 32 | 8,000  |   | 3         | 11,660 | D品  |
| 6  | D品       | 220 | 53 | 11,660 |   |           |        |     |
| 7  | E品       | 180 | 27 | 4,860  |   |           |        |     |
| 8  | F品       | 250 | 29 | 7,250  |   |           |        |     |
| 9  | G品       | 190 | 41 | 7,790  |   |           |        |     |
| 10 | H品       | 210 | 68 | 14,280 |   |           |        |     |
| 11 | 合 計      |     |    | 80,430 |   |           |        |     |

〔処理条件〕

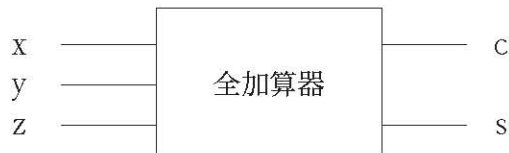
- (1) D列の「売上金額」は、「B列の『単価』」×「C列の『数量』」で計算して求める。
- (2) D11の「売上金額」は、D3からD10までの合計である。
- (3) G3の「売上金額」は、D3からD10までの「売上金額」の中で最も大きい数値を表示し、同様に、G4は2番目に大きい数値、G5は3番目に大きい数値を表示する。ただし、G3の式をG4からG5までコピーする。
- (4) H3の「商品名」は、G3の「売上金額」と一致する「売上金額」をD3からD10のうちから検索し、一致した「売上金額」に対応するA列の「商品名」を表示する。また、H4及びH5の「商品名」も同様とし、H3の式をH4からH5までコピーする。

- 1 =DMAX(\$A\$3:\$D\$10, 2, D3)
- 2 =HLOOKUP(G3, \$A\$3:\$D\$10, 2, FALSE)
- 3 =INDEX(\$A\$3:\$A\$10, MATCH(G3, \$D\$3:\$D\$10, 0))
- 4 =VLOOKUP(G3, \$A\$3:\$D\$10, 2, FALSE)

〔問 3〕 2進数「11100」と10進数「6」の積を2進数で表したものととして適切なものは、次の **1**～**4** のうちのどれか。解答番号は 18。

- 1** 1000100
- 2** 1110010
- 3** 10101000
- 4** 11010100

〔問 4〕 次の図は、ある全加算回路を表したものである。この全加算回路の x に 0、y に 1、z に 1 を入力したとき、出力となる上位桁への桁上がりである c の値と、加算結果である s の値との組合せとして適切なものは、下の **1**～**4** のうちのどれか。解答番号は 19。



|          | c | s |
|----------|---|---|
| <b>1</b> | 0 | 0 |
| <b>2</b> | 0 | 1 |
| <b>3</b> | 1 | 0 |
| <b>4</b> | 1 | 1 |









